岩手東海新聞2006.5.23
〔第3種郵便物認可〕 第16994号

東大助教授の玄田有史さん

逃げずにチャレンジを

釜石商高3年生にエール

「希望学プロジェクト」の返礼で講演

卒業後就職する生徒の割合が高い県立釜石商業高校（斎藤静雄校長）で22日、釜石市主催の勤労意識啓発講演会が開かれ、東京大学社会科学研究所助教授の玄田有史さん（経済学博士）が「働くってどういうこと」をテーマに講演した。これから就職など進路の壁に立ち向かう3年生の生徒らに対し、玄田さんは「壁を前にしっかりと悩み、決して逃げ出さないこと。そこから必ずチャンスが生まれる」とエールを送った。

〔玄田有史さん（顔写真）のアドバイスに耳を傾ける釜石商高の生徒ら〕

「希望はなかなかないものではないが、夢を持ち続けることによって、やりがいのある仕事に出会えるようになる。失望することによって、やりがいのある仕事が分かるようになるものだが、希望がなければ失望もない」と玄田さん。「やりがいのある仕事を持っている人は『たまたま』などと言うが、そこには必然的な偶然がある」とした上で、共通点として、①さまざまな友人を持っている②あいさつをする③逃げずにチャレンジする―の3つを挙げた。

「やりたいことを一人で考えても、なかなか見つからない。価値観や生き方が違う人と緩く付き合うことで世界が広がり、必然的な偶然が舞い降りてくる。『ありがとう』とあいさつすることで発見するものも多い。『わからない』から逃げずにいれば必ずチャンスはやってくる」と玄田さん。「迷ったときに目先の損得勘定にとらわれると、良い生き方はできない。大事なことをちゃんと悩み、逃げ出さないこと。何げないつながりの中から、いろんなチャンスが生まれてくる」などと、生徒らに前向きな生き方をアドバイスした。

玄田さんは島根県松江市出身で、東大経済学部卒後、ハーバード、オックスフォード大学の客員研究員として活動。学習院大教授を経て、02年から現職。専門は労働経済学で、著書に「子どもがニートになったら」（NHK生活人新書）があるなど、「ニート（就学・就業していない若者）」の問題についても詳しい。

玄田さんは、東大社会科学研究所が今年9月に釜石市で調査を行うことになった「希望学プロジェクト」のリーダーで、釜石市がフィールド・ワークの対象になった返礼にと、高校生を対象にした講演会の講師を買って出た。

玄田さんの話には、釜石商高の3年生79人のほか、生徒の父母や教職員らが耳を傾けた。この講演会は23日、釜石工業高でも行われた。